



2026年4月2日

各 位

会 社 名 株式会社UNIVA・Oakホールディングス  
代表者名 代表取締役会長兼社長グループCEO 稲葉 秀二  
(コード：3113 東証スタンダード)  
問合せ先 取締役グループCFO 作田 陽介  
(TEL. 03-6682-9884)

## 株式会社ユニヴァ・ペイキャストの株式取得（子会社化）に向けた基本合意書締結のお知らせ

当社は本日開催の当社取締役会において、株式会社ユニヴァ・ペイキャスト（以下「ユニヴァ・ペイキャスト」といいます。）の株式を取得（以下「本件株式取得」といいます。）し、子会社化することについて今後検討を進める旨、ユニヴァ・ペイキャストの親会社であるUNIVA CAPITAL Holdings Limited（以下「UCH 社」といいます。）との間で、基本合意書を締結すること（以下「本合意」といいます。）を決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、ユニヴァ・ペイキャストの代表取締役を兼務しており、またUCH社の発行済株式の49%を保有する株主でもある代表取締役稲葉秀二は、利益相反回避の観点から審議及び決議に参加しておりません。

なお、ユニヴァ・ペイキャストについては、2021年12月15日付「当社と株式会社ユニヴァ・ペイキャストとの株式交換に関する基本合意書締結のお知らせ」にて公表の通り子会社化に向けた検討を開始、その後2022年7月19日付「（開示事項の中止）株式会社ユニヴァ・ペイキャストとの株式交換の中止に関するお知らせ」にて公表の通り子会社化に向けた検討を一旦中止しておりましたが、その後の同社事業を巡る内外の環境変化等を踏まえ、改めて今般子会社化の検討を開始したものであります。

### 記

#### 1. 本件株式取得の検討の目的

当社グループは、2025年5月に第2次中期経営計画（2026年3月期からの3カ年計画）を策定し、その数値目標である「25・2・60」（連結売上高250億円、連結当期純利益20億円、時価総額600億円）を達成するために、「事業を横方向に広げ（拡大）、縦方向に深掘り（拡充）する」というグループ成長戦略を掲げております。

この度、本合意に基づき子会社化を検討するユニヴァ・ペイキャストは、キャッシュレス決済ビジネスを展開するフィンテック企業であり、同社が扱う取引件数と年間決済額はそれぞれ約2,700万件、約2,000億円です。直近2025年12月期（決算期変更に伴い9ヶ月決算となっております）においては、オンライン決済を中心に加盟店の裾野拡大を図り、SNSビジネスや個人事業主向けツールベンダーとの連携、共同セミナー施策等が奏功して新規契約が着実に増加しております。具体的には当該9ヶ月間の契約純増数はオンライン・オフライン決済契約合計で約13,000件となり、加盟店数は前期（2025年3月期）比128.9%の58,000店に達しております。また、こうした加盟店数の増加に伴い、収益構成の分散も着実に進展しております。特に、月間決済額1億円未満の加盟店比率が高まったことにより売上高の底上げが実現され特定の大口加盟店への依存度が低減した結果、より一層安定的な収益基盤が確立されつつあります。

斯かるユニヴァ・ペイキャストには他の決済事業者にはない2つの優位性があります。

その1点目は、Alipay/WeChat等による中国を中心としたアジア圏のインターネット上の「越境決済」を始め他のアジア諸国のモバイル決済を日本国内においていち早く利用できるように対応し、キャッシュレス決済を導入する加盟店から「インバウンド決済ならユニヴァ・ペイキャスト」と評価される

ユニークなポジションを築いたという先行者としての優位性です。2点目は、自社による決済システム開発力、高度なセキュリティおよび加盟店への手厚いサポートに対する信頼性がユニヴァ・ペイキャストの加盟店の稼働率の高さに繋がっており、海外のモバイル決済提供事業者からも高い評価を得ております。その結果、豊富な決済手段のラインナップを提供することにより加盟店から選ばれるという好循環を実現しております。

一方、ユニヴァ・ペイキャストが創業以来運営してきた「決済代行」事業は、キャッシュレスの普及やフィンテックの台頭による大手企業の参入により事業環境が激変しております。ユニヴァ・ペイキャストはこれまで培ってきたノウハウやネットワークによる「インバウンドならユニヴァ・ペイキャスト」というユニークなポジショニングをさらに強化することを成長戦略としており、さらに、コロナ禍を経てDXやキャッシュレス決済はより一層進化しており、フィンテックを活用したグローバル市場への本格的参入はユニヴァ・ペイキャストにとって最重要経営課題となっております。

斯かる中、ユニヴァ・ペイキャストは、2024年12月23日付「当社による台湾企業への資本参加並びに当社及びUNIVA CAPITALグループによる 同企業日本法人との業務提携にかかわる基本合意に関するお知らせ」にて公表の通り、当社が資本参加したWeb3.0ブロックチェーン技術を活用した国際決済サービスや総合宿泊サービスを展開するOwlTing Groupの在日法人であるOwlPay Japan株式会社への事業支援の一環として、日本における OwlPay（支払いに最適なWeb3の決済ツール）、グローバルデジタル決済ソリューションの展開に関して相互に協力のうえ推進しております。

当社は、以上のようにビジネス機会の頻度が高い「キャッシュレス決済ビジネス」を新たに当社グループ事業に取り込むことは、第2次中期経営計画のグループ成長戦略の1つである「事業を横方向に広げる（拡大）」することに繋がると共に、当社グループの株式会社ユニヴァ・ジャイロン（以下「ユニヴァ・ジャイロン」といいます。）が手掛ける「デジタルマーケティング事業」及び株式会社UNIVA証券（以下「UNIVA証券」といいます。）が手掛ける「成長支援事業」とのシナジー効果を以下の通り現出することにより、第2次中期経営計画のもう1つのグループ成長戦略である「事業を縦方向に深掘り（拡充）すること」にも資すると考えており、こうしたシナジー効果を通じて当社グループは企業の成長を総合的に支援する確固たるプラットフォームを構築してまいります。

#### 【デジタルマーケティング事業（ユニヴァ・ジャイロン）とのシナジー効果】

##### <キャッシュレス決済 × デジタルマーケティングツール>

###### ・顧客データの高度活用

キャッシュレス決済で取得できる購買データとデジタルマーケティングツールの行動データを統合することにより顧客分析の精度を高めてまいります。

###### ・決済サービスの付加価値向上

キャッシュレス決済を単なる決済インフラではなく、マーケティング支援ツールとして提供することにより導入事業者の利便性と競争力を高めてまいります。

###### ・顧客基盤の相互活用

マーケティングツールの顧客基盤と決済サービスとを連携させることによりクロスセル機会を創出してまいります。

#### 【成長支援事業（UNIVA証券）とのシナジー効果】

##### <キャッシュレス決済×金融サービス>

###### ・資金調達・金融サービスの提供

決済加盟店に対して成長資金（エクイティ）、融資、ファンド、資本政策等の金融サービスを提供してまいります。

###### ・顧客基盤の相互活用

キャッシュレス決済を導入する店舗・EC事業者の成長を後押ししてまいります。

###### ・決済データを活用した企業分析

売上、決済等のリアルタイムデータに基づき、成長企業のサーチに活用してまいります。

以上を踏まえ、当社としては、本件株式取得によりユニヴァ・ペイキャストを子会社化することが、第2次中期経営計画のグループ成長戦略に適用のものであり、また第2次中期経営計画の数値目標である「25・2・60」の達成に大きく資するものと考えられることから、本件株式取得の実施に向けた検討を開始する旨の基本合意書を締結いたしました。

## 2. 異動する子会社（ユニヴァ・ペイキャスト）の概要

(1) 名 称	株式会社ユニヴァ・ペイキャスト			
(2) 所 在 地	東京都港区六本木一丁目6番1号			
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役会長 稲葉 秀二 代表取締役社長 中尾 周平			
(4) 事 業 内 容	決済事業			
(5) 資 本 金	5,360万円			
(6) 設 立 年 月 日	2009年9月11日			
(7) 発 行 済 株 式 総 数	2,172株			
(8) 大株主及び持株比率	UNIVA Capital Holdings Limited 93.3%			
(9) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	該当事項はございません。		
	人的関係	当社代表取締役稲葉秀二が代表取締役を兼務しております。		
	取引関係	該当事項はございません。		
(10) 当該会社の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態				
	決算期	2024年3期	2025年3期	2025年12期(※)
純 資 産 (百万円)		379	536	770
総 資 産 (百万円)		6,575	4,934	13,862
1株当たり純資産 (円)		174,317	246,851	354,403
売 上 高 (百万円)		3,885	5,874	4,883
営 業 利 益 (百万円)		45	222	328
経 常 利 益 (百万円)		81	225	337
当 期 純 利 益 (百万円)		51	158	234
1株当たり当期純利益 (円)		23,469	72,534	107,552
1株当たり配当金 (円)		-	-	-

(※) 決算期変更に伴う9ヶ月の変則決算です。

## 3. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個) (議決権所有割合：0.0%)
(2) 取得株式数	1,087株 (議決権の数：1,087個)
(3) 取得価額	未定 (注) 現時点で取引スキーム等については未定であり、今後株式取得の相手先等と協議のうえ決定します。
(4) 異動後の所有株式数	1,087株 (議決権の数：1,087個) (議決権所有割合：50.05%)

#### 4. 日程

(1) 基本合意書締結日	2026年4月2日
(2) デューディリジェンス	2026年4月～2026年6月
(3) 正式契約締結日	2026年6月中旬(予定)
(4) 株式取得実行日	2026年7月1日(予定)

#### 5. 今後の見通し

(1) 本件株式取得の条件・スキームについては、今後 UCH 社等と協議のうえ決定してまいります。なお、本件につきましては、決定次第、速やかに開示いたします。

##### (2) 公正性を担保するための措置

UCH社は当社の支配株主等ではないため、本件株式取得は、当社にとって、東京証券取引所の定める有価証券上場規程第441条の2における「支配株主との重要な取引等」には該当いたしません。しかしながら、当社の代表取締役である稲葉秀二氏が、ユニヴァ・ペイキャストの代表取締役を兼務しており、またUCH社の発行済株式の49%を保有する株主でもあることから、当社といたしましては、本件株式取得に係る意思決定については一定の構造的な利益相反関係があり、本件株式取得の公正性を担保する必要があると判断すべき事情があると考えたため、一定の公正性担保措置を講じる予定です。具体的には、当社は、意思決定過程における恣意性を排除する観点から、当社及びUCH社から独立した第三者算定機関から、ユニヴァ・ペイキャストの株式価値算定書の提出を受ける予定です。また、当社は、当社及びUCH社から独立したリーガル・アドバイザーを選任し、法的な観点から意思決定方法を含む諸手続及び対応等について助言を受ける予定です。

##### (3) 利益相反を回避するための措置

上記(2)「公正性を担保するための措置」に記載のとおり、本件株式取得は、当社にとって「支配株主との重要な取引等」には該当いたしません。一定の構造的な利益相反関係があるものと考え、一定の利益相反回避措置を講じる予定です。すなわち、当社は、UCH社との間に利害関係を有する者を除くメンバーによるプロジェクトチームを組成して、本件株式取得に係る検討を進めていく予定です。また、ユニヴァ・ペイキャストの代表取締役を兼務しており、またUCH社の発行済株式の49%を保有する株主でもある稲葉秀二氏は、利益相反回避の観点から、本合意を含む本件株式取得に係る最終契約の締結に向けた取締役会の審議及び決議に参加しておらず、今後も参加しない予定です。さらに、当社は、当社及びUCH社からの独立性を有しており、かつ、当社事業に対する識見も高い、監査等委員である社外取締役を構成員とする特別委員会（以下「本特別委員会」という。）を設置するとともに、本特別委員会に対し、(a)本件株式取得の目的の合理性、(b)本件株式取得の取引条件の妥当性、(c)本件株式取得の手続の公正性、(d) (a)から(c)を踏まえ本件株式取得が少数株主に不利益でないこと、及び(e) (a)から(d)を踏まえ本件株式取得の是非について諮問し、当該諮問事項に対する意見を記載した答申書を取得する予定です。

#### 6. 業績への影響

本件株式取得による今期の当社連結業績に与える影響については現在精査中であり、今後開示すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以上